

## **2026 CAR PPT Script**

### **3 of 6: Gender-Neutral and Inclusive Language**

#### **スライド1**

これは、2026年カンファレンス・アジェンダ・レポート（略してCAR）に含まれる資料を扱った、6本のパワーポイントのうちの3本目です。

#### **スライド2**

このパワーポイントは、「ジェンダー・ニュートラルおよび包括的な言語」というテーマを扱います。

#### **スライド3**

これらのパワーポイントは、CARの主なポイントのみを扱っています。すべてのメンバーに、CAR本体を読んでいただくことを勧めます。完全版の2026年CAR、他のパワーポイント、その他のカンファレンス資料は、[na.org/conference](http://na.org/conference) をご覧ください。

#### **スライド4**

NA文献におけるジェンダー・ニュートラルな言語は、このCARにディスカッション用の質問が含まれている2つのトピックのうちの1つです。ワークショップでこれらの質問を話し合う場合、これは「ディスカッション」であって「決定」ではないことに注意してください。合意に至る必要はありません。互いの話を聞き、[na.org/survey](http://na.org/survey) にあるインプットフォームに向けて考えを整理する機会です。

#### **スライド5**

ジェンダー・ニュートラルで包括的な言語というテーマは、今なお苦しんでいるアディクトの中に、NAミーティングで十分に受け入れられていない、あるいは含まれていないと感じている重要な人々がいるという事実から生じています。

ミーティングをよりウェルカムなものにするにはどうすればよいか、という問いは新しいものではありません。以下の2008年CARからの一節は、今日書かれたものと言っても差し支えないでしょう。

「NAの多くの美しい側面の一つは、年齢、民族性、経済状況、信条などに関わらず、私たちのプログラムがどんなアディクトにも機能するという点です。私たちは『大きなテント』のフェローシップです。課題は、それを他の人たちにどう伝えるかです。私たちは、地域集まりのすべての人々に、開かれた多様なフェローシップであることを、どう示せるでしょうか。そして、すべてのアディクトが私たちの部屋で同じように居心地よく感じられるよう、何ができるでしょうか？」

## スライド6

ジェンダー・ニュートラルな言語は、直近2回のカンファレンス・サイクルにわたり、フェローシップの関心事項となってきました。このテーマを扱う動議は2020年CARに掲載されましたが、パンデミックによる制約のため、WSC 2020では取り上げられませんでした。2023年には、WSCが動議14を可決しました。

「ジェンダー特有の言語から、ジェンダー・ニュートラルかつ包括的な言語への変更および／または追加文言をNA文献に取り入れることについて調査するため、次回WSCで検討されるプロジェクト計画を作成するよう、ワールドボードに指示する。」

## スライド7

それ以降、カンファレンス参加者はNAWS戦略計画における包摂のための目標と解決策を特定するために協力してきました。計画の目標7は、「多様なフェローシップにおける包括性に対する意識を高め、対面およびオンラインのミーティングにおいて、すべてのメンバーおよび潜在的メンバーが安全で、歓迎され、含まれていると感じられるよう支援するツールを開発する」ことです。対応する提案された解決策の一つが、「NA文献におけるジェンダー特有の言語から、ジェンダー・ニュートラルかつ包括的な言語への変更および／または追加文言を調査する」です。

## スライド8

NA文献におけるジェンダー・ニュートラルな言語は、2023年WSCにおいて課題ディスカッショントピック（IDT）としても選ばれ、このサイクルを通じてアンケートが実施されました。5,500人以上が回答し、この問題に強い意見を持つ人が多いことが明らかになりました。50%は、NA文献の文言をジェンダー包括的に変更することが肯定的な効果をもたらすと考えており、約45%は変更を支持しませんでした。

## スライド9

ロシアから多くの回答があった点にも注目すべきです。ロシアでは、現行法や政治的圧力により、ジェンダーやアイデンティティに関する問題が特に困難な状況にあります。ある意味で、ロシアからの回答は、NA文献に関する今回の変更とは異なる一連の課題に関連、あるいは影響されている可能性があります。ロシアからの回答を除くと、NA文献をジェンダー・ニュートラルに変更することへの支持は62%、反対は32%に変わります。NAのように多様で国際的なフェローシップにおいて、集団的な決定を行うことは容易ではありません。検討されている変更の正確な内容を明確にし、対話を続けることが、フェローシップとしての合意形成につながることをワールドボードは期待しています。2026年カンファレンス・レポートには、このIDTに関するアンケートデータのまとめが含まれます。

## スライド10

ジェンダー・ニュートラルな言語について話すとき、実際には3つの異なる事柄を扱っていま

す。メンバーおよび潜在的メンバーを表す言葉、神を表す言葉、そしてステップと伝統の文言です。これら3つは一つの問題として扱うべきではなく、それぞれ個別に取り組む必要があります。NA文献への影響が異なり、特にステップと伝統については、異なる改訂プロセスが必要となるためです。WSC 2026では出発点として、メンバーおよび潜在的メンバーを表す言語のみに焦点を当てる予定です。動議14に基づき、ワールドボードはこのテーマに関するプロジェクト計画を提示します。2025年暫定WSCでは、新規または改訂された回復文献、サービス資料、IDTに関する提案は動議ではなくCARサーベイを通じて提出することが決定されましたが、動議14で求められているのは「変更を調査するプロジェクト」であり、即時の改訂はありません。そのため、これには独自のプロジェクト計画が用意されます。

### スライド11

NA文献をジェンダー・ニュートラルにすることに反対する意見の中には、ジェンダー・ニュートラルな言語が文献において実際に何を意味するのかについての誤解が見られました。明確な例として、IP#7『私はアディクトなのだろうか?』の最初の段落があります。そこでは「簡単に言えば、アディクトとは、人生が薬物によって支配されている人間のことだ」と書かれています。これに対し、ミーティングでよく読まれる『ホワイトブック』の「アディクトとは」では、「簡単に言えば、アディクトとは、人生が薬物によって支配されている男または女のことだ」（日本語訳では”人間”になっている）となっています。

### スライド12

「男または女」と「人」という違いは、多くの私たちにとっては取るに足らないものに見えるかもしれませんが。しかし、あるアディクトにとっては、それが決定的な違いとなります。ジェンダー・ニュートラルな言語は、多くのメンバーが気づかない形で、“これは自分の話だ”と感じられることへの道をなめらかにします。実際、2012年に『リビング・クリーン』が発行されて以降、新しいNA文献がよりジェンダー・ニュートラルに書かれていることを知らない人も多くいます。

### スライド13

2023年WSCにおいて、カンファレンスは合意形成により『NAサービスのビジョン』を改訂し、「彼または彼女自身の言語と文化（his or her own language and culture）」という表現を「彼ら自身の言語と文化（their own language and culture）」に変更しました。このビジョン文は、この議論の核心を示しています。すなわち、世界中のすべてのアディクトが、私たちのメッセージを体験する機会を持つということです。

### スライド14

一部のメンバーにとって、ベーシックテキストを変更するという考えは、NAが長年培ってきた力強さを失うのではないかという懸念を呼び起こします。これらのメンバーは、誰かが表現

を気に入らないたびに文献を改訂する前例を作ってしまうのではないかと心配しています。変更に対抗する意見の主流は、「壊れていないなら、直すな」というものでした。

### スライド15

しかし、NAの言語が「壊れていない」としても、現実には、すべての人にとって機能しているわけではありません。ワールドサービスには、文献のジェンダー化された言語によって排除されていると感じるメンバーからの声が増えています。特にグループリーディングは、多くのアディクトにとってNAとの最初の接点です。さらに、メンバーへのアンケートでは、最も重要な集団—最初のNAミーティングに行き、居場所がないと感じて二度と戻らなかった、今なお苦しんでいるアディクトーの声を捉えることはできません。2024年メンバーシップ・サーベイによれば、メンバーは最初のNAミーティングを非常に重要だと感じています。NAに留まった理由として、83%が「これは自分の話だ」と感じられること (identification) 」を主要な要因として挙げました。私たちは、この対話に現れていない潜在的メンバーを無視することはできません。

### スライド16

歴史を振り返ると、まさに同じ理由—歓迎されていると感じるアディクトの輪を広げるために、ベーシックテキストが改訂されたことがわかります。元の「どのように機能するか」という章には、「習慣を持たない、あるいは続けられない唯一の方法は、最初のフィックス（注射）、錠剤、あるいは酒を摂取しないことだ」と書かれていました。フェローシップが成長するにつれ、あるアディクトたちは声を上げました。彼らは「最初のフィックス（注射）、錠剤、あるいは酒」という表現に“これは自分の話だ”と感じられることができなかったのです。より多くのアディクトを歓迎するために、より包括的な言語が必要であることは明らかでした。1986年の世界サービス・カンファレンスは、文言を「盛んに使っていたころのアディクトに逆戻りしない方法はただ一つ、最初の一回に手を出さないことだ」と改訂する動議を可決しました。

### スライド17

このシンプルな変更によって、文章の重みはそのまま保たれました。何も失われることはなく、「フィックス（注射）、錠剤、あるいは酒」という具体的な言葉に“これは自分の話だ”と感じられることができなかった人々にとっては、受け入れられているという感覚と帰属意識が得られました。アンケート回答者の多数は、「男と女の集まり」を「人々の集まり」に変えるといった変更も、同じ効果をもたらすと考えているようです。

### スライド18

回復が進むにつれて、私たちは違いではなく共通点に目を向けることを学びます。しかし、ニューカマーはしばしば違いに注目し、自分を「救いようのないほど特別」だと感じがちです。古い文献をより包括的に変更することの意味を話し合う際、私たちを導くのは「共通点」というスピリチュアルな原理です。包括的な言語は分断を生むのではなく、その逆です。私た

ちは人々の集まりです。私たちの第一の目的は、今なお苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことです。個人的な信念がどうであれ、私たちは皆、どこにいるアディクトにも歓迎されていると感じてほしいと願っています。全体の福利が第一であるべきです。それを実際の行動としてどう表すのかという問いは、世界中のワークショップで、情熱的で示唆に富んだ議論を生み出しています。

## スライド19

### ディスカッション用アイスブレイカー

[ファシリテーター：すでに別のディスカッション質問の前にこのアイスブレイカーを行っている場合は、ここでまだ発言していない人に声をかけるか、このセッションでは省略しても構いません。]

今回のサイクルで行っている多くの議論は、NAに来て「ここが自分の居場所かどうか」を判断しようとしている人の体験を考えることを求めています。CARの質問を話し合う前に、私たち自身がNAに来た当初に「救いようのないほど特別」だと感じた経験を少し振り返ってみましょう。新しかった頃、自分が違っている、特別だ、あるいは部外者だと感じた点は何でしたか？ NAが自分の居場所だと気づく助けになったのは何でしたか？

私から始めます。[ファシリテーターが自身の経験を共有する]

他に共有したい人はいますか？

## スライド20

### ディスカッションクエスチョン

WSC 2026では、カンファレンス参加者がこの問題について時間をかけてディスカッションします。その議論の参考とするため、CARワークショップでこの質問について話し合い、2026年4月1日までに [na.org/surveys](https://na.org/surveys) からフィードバックをお寄せください。

これらの質問では、CARエッセイで説明されているNA文献におけるジェンダー・ニュートラルな言語一人（メンバーおよび潜在的メンバー）を表す言語の変更—に焦点を当てます。ハイヤー・パワーを表す言語は含みません。「男と女」から「人々」への変更などは、文献のメッセージの意味を変えるものではなく、より多くの人々が“これは自分の話だ”と感じられることができるようにするものです。ステップと伝統の文言については、将来の議論とします。

私たちは皆、誰もが回復できる安全でウェルカムかつ包括的なフェローシップを提供したいと願っています。そのために、より効果的にメッセージを運ぶ目的で、こうした文献上の変更を探求する意思はありますか？ もしないとしたら、それはなぜでしょうか。

これはディスカッションであって決定ではありません。合意に至る必要はありません。互いの話を聞き、インプットフォームに向けて考えを整理する機会です。

### ディスカッションのため一時停止

## スライド21

このパワーポイントが、この資料についてのディスカッションの助けとなることを願っています。

す。このIDTについてのご意見は [na.org/survey](http://na.org/survey) からお寄せください。皆さんのインプットは、5月に開催される世界サービス・カンファレンスでカンファレンス参加者によって検討されます。

ジェンダー・ニュートラルな代替リーディングに関するいくつかのグループのアイデアは、[na.org/gender](http://na.org/gender) でご覧いただけます。

なお、CARの他の部分に焦点を当てたパワーポイントが、あと5本あります。これらの資料、CAR本体、CARサーベイはすべて [www.na.org/conference](http://www.na.org/conference) で公開されています。

CARおよびその他すべての課題に関するご質問やフィードバックは、[worldboard@na.org](mailto:worldboard@na.org) までお寄せください。